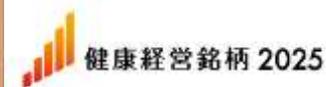


健康経営におけるPFS活用の 意義について

2026年1月29日



名古屋銀行について

名古屋銀行の概要 (2025年3月31日現在)

名称	株式会社名古屋銀行
所在地	名古屋市中区錦三丁目19番17号
設立	1949年2月24日
総資産(連結)	5兆7,703億円
貸出金	4兆55億円
有価証券	9,403億円
預金等*	5兆333億円
資本金	250億円
従業員数	1,786名

*預金等=預金+譲渡性預金

1951年

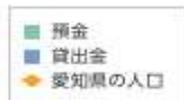
相互銀行法の施行により
株式会社名古屋相互銀行に
商号変更

1963年

本店新築移転
(名古屋市中区錦三丁目)

1959年

伊勢湾台風被災
移動バスで港支店営業



339万人

1956年
資金量100億円達成

1965年
資金量1,000億円達成

1981年
資金量1兆円達成

1986年

中国南通市に海外駐在員
事務所開設 (2011年9月閉鎖)



1989年

普通銀行へ転換
株式会社名古屋銀行に
商号変更



Mission

使命、目的、経営理念
果たすべきこと

社是
ミッション

本社



2018年

未来創造業宣言



Purpose

存在意義

未来創造業
パーパス

Vision

中長期的な目標、理想像・なりたいたい姿
なしでいたい未来

第22次
経営計画
ビジョン

2030年
ビジョン

Value

行動指針、判断基準
大切にしている価値

行訓
バリュー

- よいサービス**
誠意があふれ、行き届いた、
スピーディなサービス
- よい人**
人を高め、人を厚くし、
明るいまちをつくる
- よい経営**
健全で、顧客に富んだ、
全員参加の経営

2011年

中国南通市に南通支店開業



2022年

静岡銀行と包括業務提携
「静岡・名古屋アライアンス」締結



2024年

資金量5兆円達成

2020年
資金量4兆円達成

2011年
資金量3兆円達成

資本金 250億円
従業員数 1,786名
預金等* 5兆333億円
貸出金 4兆 55億円
(2025年3月末)

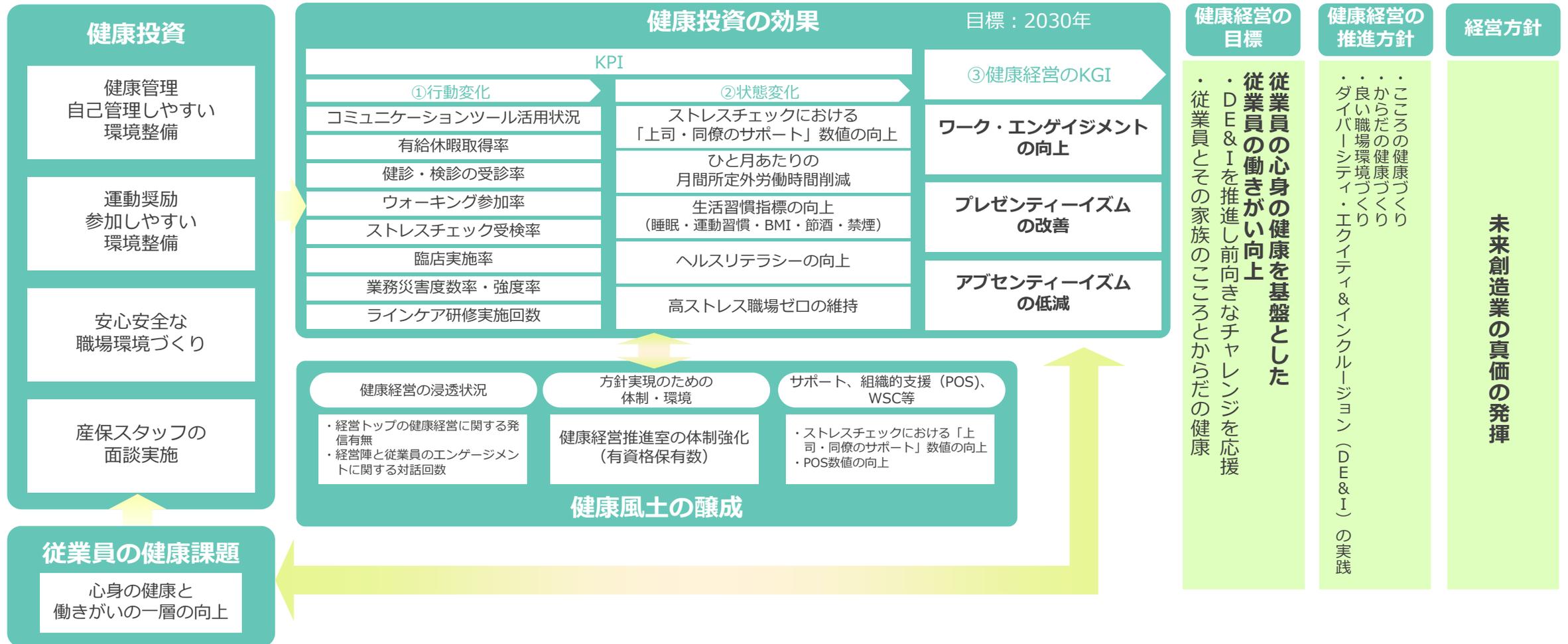
*預金等=預金+譲渡性預金

745万人

健康経営の全体像（戦略マップ）

- 健康に働く従業員や働きやすい職場が増えることで、組織が活性化し、企業業績や企業価値が向上する。これが健康経営に取り組む意義。
- 健康経営は、結果的に業績向上や株価向上につながると期待される経営手法。
- ➡戦略的に強化したいポイントや、改善や浸透がはかれず自社だけではブレイクスルーが難しい課題の出現。

作成年月日 2025年9月



名古屋銀行の2030年ビジョンと「働きがい改革」

- 経営計画の柱の1つに働きがい改革をプロット。健康経営は経営計画を遂行するうえでの、重要施策としている。
経営計画 → マテリアリティ（重要課題） → 「働きがい改革」 → 各種施策

【第22次経営計画抜粋（2023年4月～2031年3月）】

2031年3月のありたい姿「2030年ビジョン」

お客さまとともに成長する
地域 No. 1 金融グループ



サステナビリティ



人的資本戦略



DX戦略

マテリアリティ



健全な地域経済の
成長への支援



持続可能な
環境保全への貢献



将来にわたり活躍し
続ける人財の育成

健康経営を人的資本戦略の重要施策と位置づけ、やりがいをもって働ける環境をつくる「働きがい改革」を通じて、積極的で温かい組織風土を一層高め、「将来にわたり活躍し続ける人財の育成」を実践していきます。

健康経営の推進方針

こころの健康づくり

メンタルヘルス対策やコミュニケーション強化施策を通じて、従業員の心理的安全性を高め、期待やワクワク感を創ります。

からだの健康づくり

生活習慣の改善や重症化予防対策の実施、各種健康イベントの開催等を通じて従業員の資本となる体を整えます。

良い職場環境づくり

働き方改革や職場環境の整備を通じて、役職員が持てる力を最大限発揮しながら、イキイキと働くことのできる良い職場環境を整えます。

DEI&Bの実践

※2026年1月よりDE&IからDEI&B（Belonging：帰属意識）の考え方を追加して施策運営をしています。

役職員一人ひとりが互いを尊重し、多様な従業員の活躍を認め、受け入れたうえで帰属意識や心理的安心感をもって働くことができる企業風土を推進します。

健康関連指標の遷移（運動習慣及び適正BMIの数値と課題について）

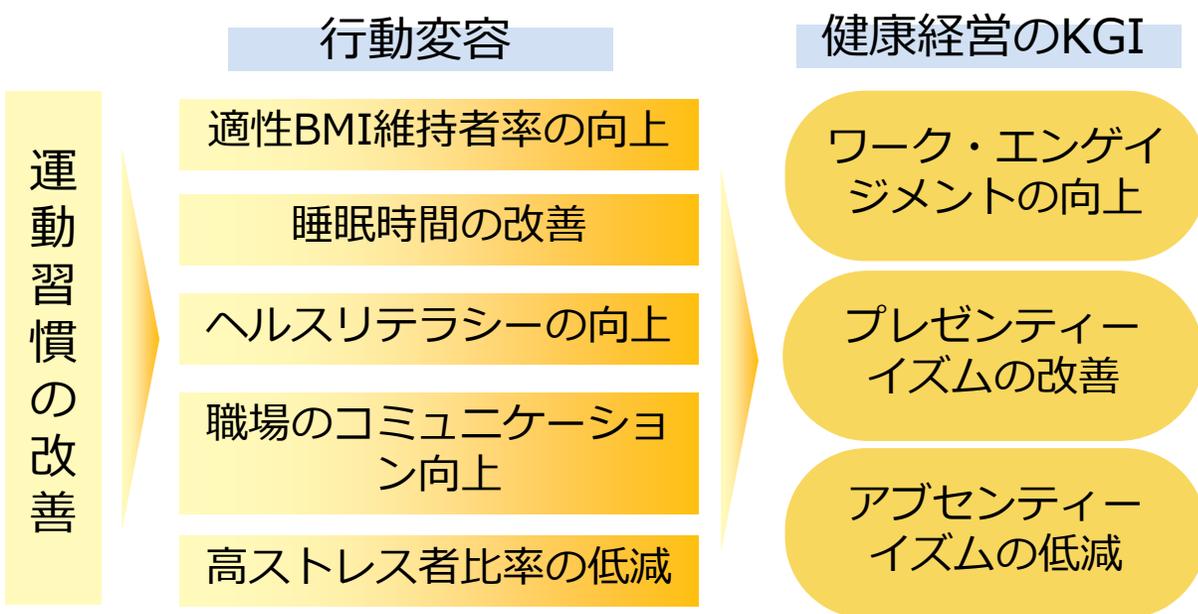
- 健康経営のKGIの一つである運動習慣はBMIの改善を中心としたからだの健康だけでなく、心の健康や社内のコミュニケーション改善にも影響する主要項目との認識から、**目標値30%から50%に上方修正**。
- BMI（適正体重維持者率）は2年連続悪化傾向。

【めいぎん健康白書2025抜粋】

③健康経営のKGI		項目	2022年度	2023年度	2024年度	2030年度 KGI
KGI	ワーク・エンゲイジメント ^{*1}	3.08 回答率94.2%	①3.57 回答率96.1% ②3.58 回答率94.1%	①3.60 回答率93.6% ②3.58 回答率94.6%	3.6	↑
	プレゼンティーズム ^{*2}	13.9 回答率74.2%	14.5 回答率91.5%	13.6 回答率88.3%	修正 15%	↑
	アブセンティーズム ^{*3}	1.0 測定2,529人	1.0 測定2,518人	0.9 測定2,541人	0.9日	↑
②状態変化に関する指標		項目	2022年度	2023年度	2024年度	2030年度 目標
状態変化に関する指標	ストレスチェックにおける上司のサポート偏差値	56.1	55.3	55.6	50以上	↑
	ストレスチェックにおける同僚のサポート偏差値	50.6	50.1	50.3	50以上	↑
	ひと月当たりの平均残業時間	9.2	9.3	9.6	14.0	↓
	生活習慣指標の向上					
	睡眠 ^{*4}	61.1	59.7	57.7	70%	↓
	運動習慣 ^{*5}	40.0	43.3	47.2	修正 50%	↑
	BMI（適正体重維持者率） ^{*6}	69.1	68.9	68.6	70%	↓
	節酒 ^{*7}	80.4	82.4	87.6	80%	↑
	非喫煙率	84.1	84.6	83.6	90%	↓
ヘルスリテラシーの向上 ^{*8}	2.5	2.5	2.6	2.5	↑	
高ストレス職場の低減 ^{*9}	7	0	0	0	→	

5. 「1回30分以上軽く汗をかく運動を週2回以上かつ1年以上継続して実施している」または「日常生活において歩行又は同等の身体活動を1日1時間以上実施」している人の割合
 6. BMIが18.5以上～25未満の人の割合

当行にとって、健康経営推進上、戦略的に強化したいポイント

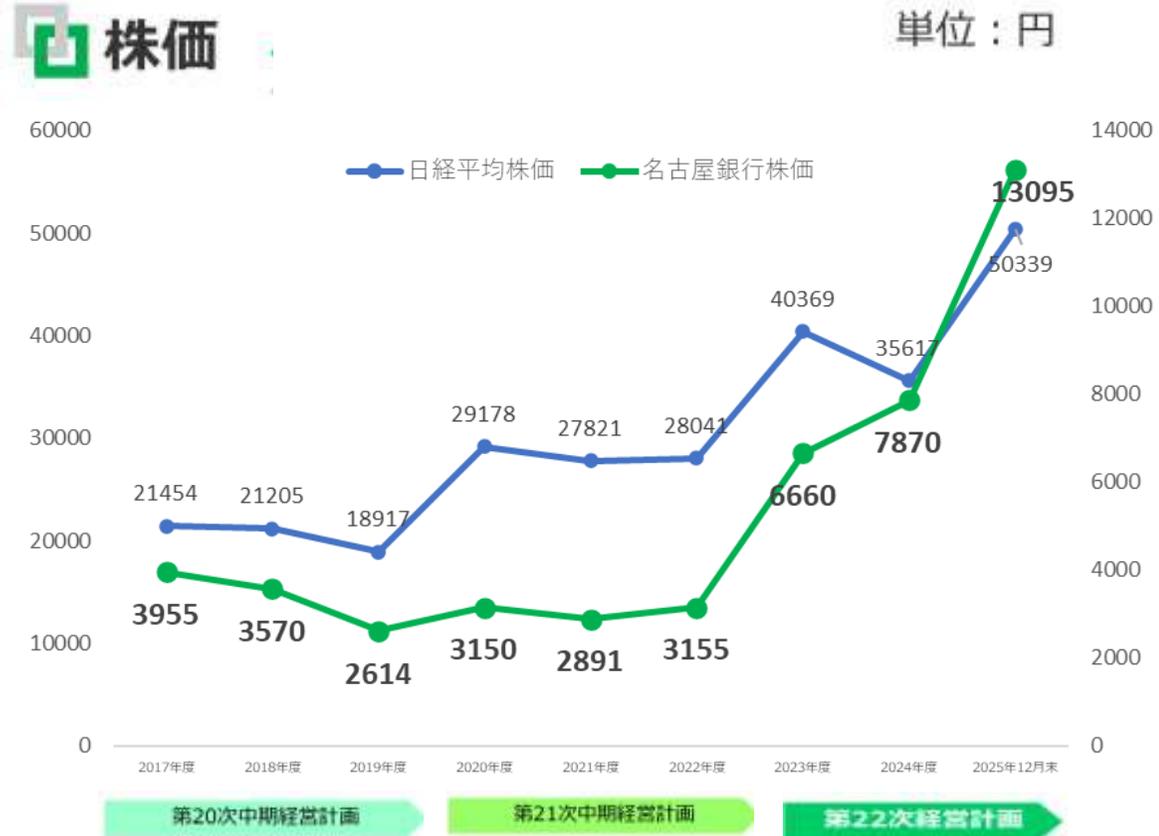


目標数値の修正
 〈運動習慣比率〉

運動習慣はBMIの改善を中心としたからだの健康だけでなく、心の健康や社内のコミュニケーション改善にも影響する主要項目との認識から、目標値30%から50%に上方修正

経営指標の遷移

◆ 経営関連指標の大半が伸長中。株価は12月31日現在4,355円（3分割後：×3 = 13,065円）
【IR資料抜粋】

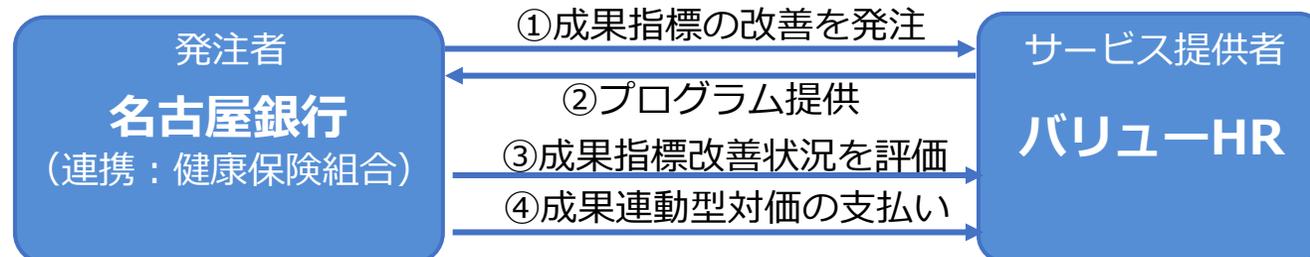


2022年度末比 株価4.15倍：日経平均1.79倍

PFS事業計画内容

項目	内容
事業目的	従業員が「働きがい」を感じながら働き続けるためには心身の良好な健康状態が不可欠である。本事業は健康施策の一環として、 40歳未満の若年層従業員が運動習慣を身に付け、自ら良好な健康を継続的に保持・増進することを目的として新たに行うものである。
実施期間	契約締結日～2026年6月30日（※プログラム実施期間は4月30日まで）
サービス提供者 (委託先)	株式会社バリューHR
対象者	2025年度健診結果において40歳未満のメタボ対象者で参加意思の確認できる従業員 ※2025年度の健康診断結果にて対象約70名
支払条件 (成果連動支払)	<ul style="list-style-type: none"> 対象者に5頁記載のバリューHRが提供する3か月間の健康サポートプログラムを提供 3か月間の支援期間中に体重が2キロ減少していること（成果連動支払） <ul style="list-style-type: none"> ①達成者に対する支払い金額40,000円/人 ②未達成者に対する支払い金額30,000円/人
PFS事業での 当行の目指す成果	<ul style="list-style-type: none"> 参加者の5割以上がプログラムを通じて体重2キロ減少を達成すること。 結果として参加者が運動習慣を身に着け、提供するプログラムを終了すること。

関係図



① 課題出し

- ・ 何を解決すべきか具体化、効果の見込みがある課題
- ・ サービス提供業者とのマッチング

② 成果指標の設定

- ・ 定量的指標の設計が可能か

③ 実施体制

- ・ 個人情報取扱いと管理体制
- ・ 関係者の役割、リスクの確認

銀行業から未来創造業へ



名古屋銀行